



特別研究員－DCの就職状況調査結果について

平成27年4月1日現在

DCの「常勤の研究職」への就職状況

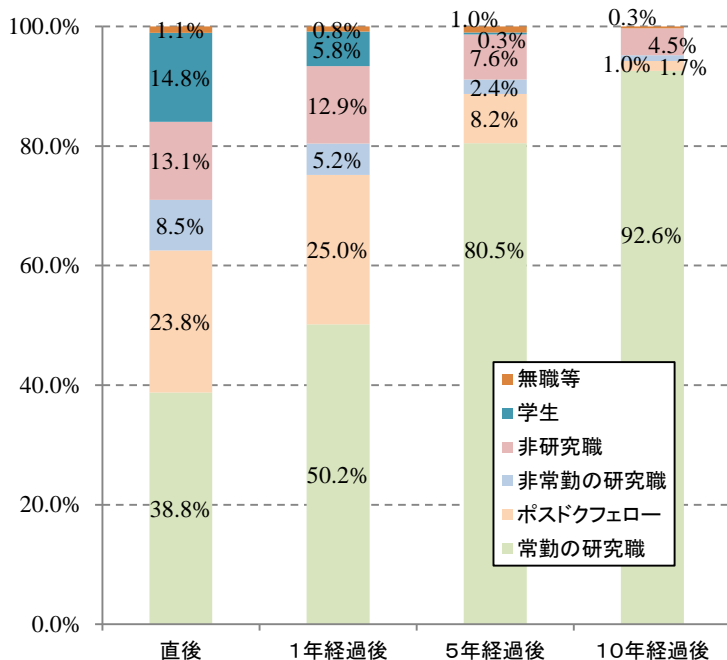
直後：「常勤の研究職・ポスドクフェロー」
(平成26年度終了者)：62.6%

1年経過後：「常勤の研究職・ポスドクフェロー」
(平成25年度終了者)：75.2%

5年経過後：「常勤の研究職」
(平成21年度終了者)：80.5%

10年経過後：「常勤の研究職」
(平成16年度終了者)：92.6%

※ 割合は不明者等を除いて算出



就職状況について（経過年別）

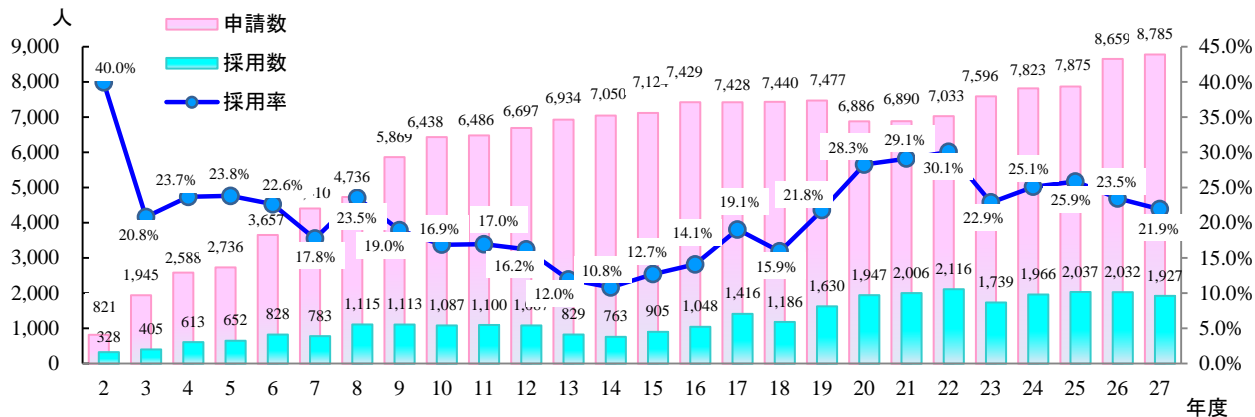
《 調査結果より 》

日本学術振興会特別研究員－DCは、5年経過後調査では、80.5%が「常勤の研究職」に就いており、我が国の研究者の養成・確保の中核的な役割を果たしている。

特別研究員制度とは

優れた若手研究者に、その研究生活の初期において、自由な発想のもとに主体的に研究課題等を選びながら研究に専念する機会を与え、研究者の養成・確保を図る制度。

大学院博士課程在学者で、将来研究者となることを目指す者を「特別研究員－DC」に採用し、2～3年間フェローシップを支給。



DC申請者数、採用者数および採用率の推移（平成2年度～平成27年度）